



人と自然との新たな関わりを求めて

フィールド活用部会からの提案



①森を舞台に人と自然の新しい関係を提案していきます。

博覧会の舞台は、里山といわれる人の手が加わって成立してきた森林であり、このような里山は、わが国の至るところに見られます。人々に開かれた魅力ある、新しい里山のあり方を、ひいては21世紀に向けた人と自然との新たな関係を提案していきます。森の環境を生かした屋外型の展示や、昔から日常生活と密接に関わり、生活文化と知恵を生み出してきた里山という視点から、里山の資源を利用するアプローチも試みていきます。



②多くの人々に森を体感してもらうような機会をつくっていきます。

舞台となる森の環境を生かした会場の活用がもとめられます。老若男女、年齢を問わず、可能な限り幅広い方々に森の中に入っていただくこと、また、森に対する負荷を最小限にすることの取り組みとして、「水平回廊」の構想を打ち出しました。里山の魅力を伝えるために、インタープリターのガイダンスのもとで行われる環境学習や遊びのプログラムを用意します。森の中では、ヴァーチャルメディアを利用した仮想体験、映像や音声などによる情報も活かし多様な展開を考えています。

-水平回廊イメージ-



写真はすべて会場収容地(海上)撮影したものです。撮影者 奥田 正典

Vertical text on the left edge of the page, including contact information and organizational details.